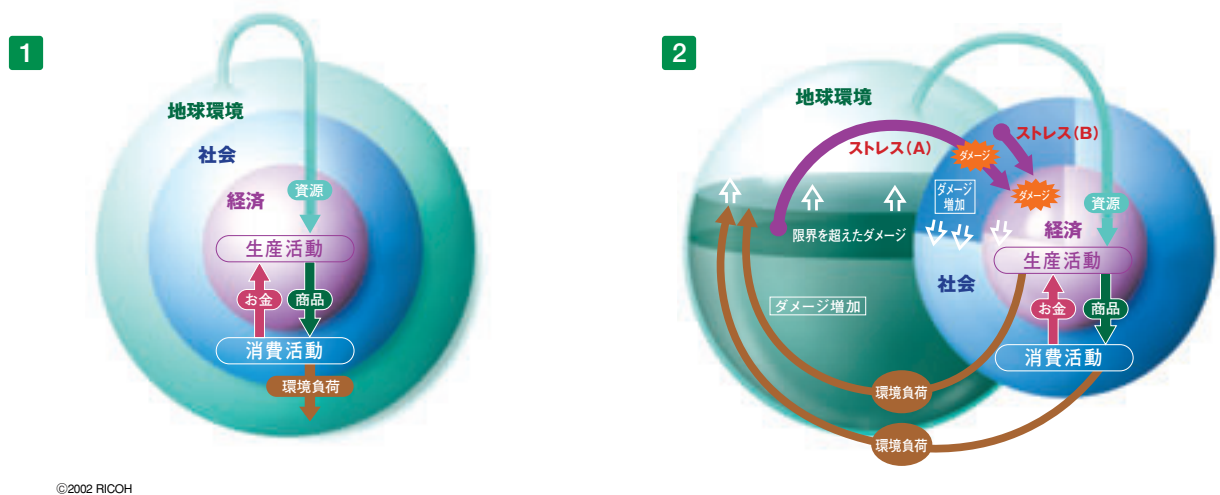


私たちの目指す姿 (Three P's Balance)

私たちは、社会全体の環境負荷を、地球環境の回復力の範囲内に抑える必要があります。

地球環境と社会との関係を表す「Three P's Balance™」



かつて人間社会から排出される環境負荷は、自然の回復能力の範囲内にとどまっていた。しかし、産業革命以降、環境負荷は急激に増え続けた。よりよい環境を取り戻すための重要なキーを握っているのは企業です。なぜ企業が、真剣に環境保全に取り組む必要性が高まってきたのかは、産業革命以降の環境・社会・経済の3つのP (Planet, People, Profit) の関係がどのように変化してきたかを考えることで明らかになります。また、私たちが目指すべき姿も見えてきます。

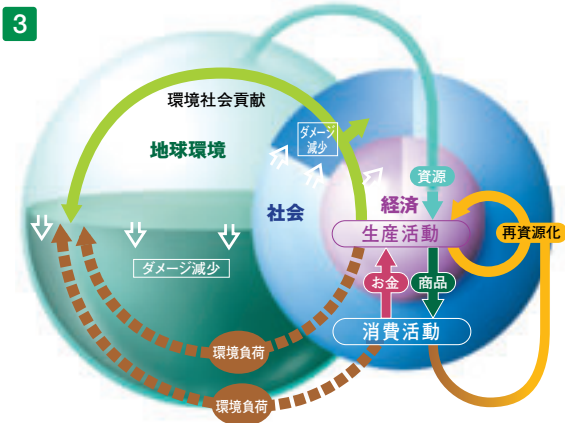
1 産業革命以前の環境負荷は小さいものでした。

産業化が始まる以前は、人間社会から発生する環境負荷は、自然の回復力の範囲内に収まっていた。

2 産業革命以降、近年まで、

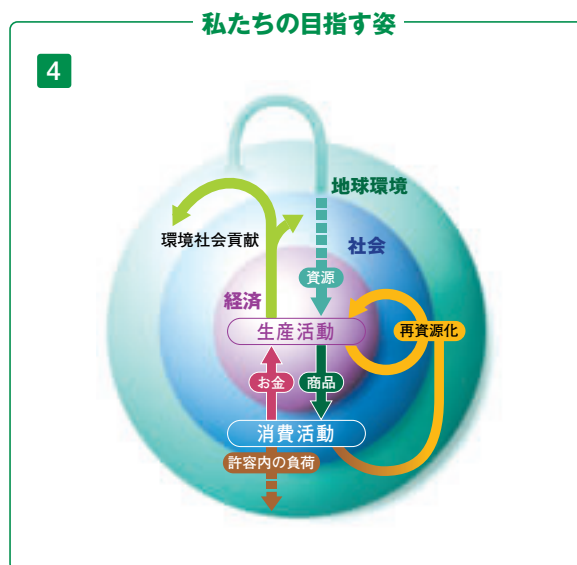
地球環境へのダメージは増大し続けました。

イギリスで始まった産業革命は、またたく間に世界に広がり、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代が始まりました。人間は、図 2 のように、あたかも自然から独立したようにふるまい始め、人間社会が自然に与えるダメージは一気に増大しました。近年の地球環境の回復力を超えた負荷は、温暖化やオゾン層の破壊などを招き、海面の上昇による陸地の水没や、南方の疫病の北上、強力な紫外線による皮膚ガンの増加など、人間社会や経済にストレス (A) を与えてきました。また、社会の行き詰まりからもストレス (B) が発生し、経済にダメージを与え始めました。今や、環境保全は世界的な課題となっています。経済活動の主体である企業は、環境保全に真剣に取り組んでいないと、社会からの支持を得られなくなってきました。



3 現在、少しずつ循環型社会が構築されつつあります。

現在の社会では、ごみの分別やリサイクル活動、省エネ活動など、地球環境へのダメージを減らすための活動が少しずつ拡大してきました。ものを大切に使い、資源を社会の中で循環させることにより、新たな資源の使用量も、廃棄するごみの量も削減できます。製造業にとっては、製品の長寿命・小型化、省エネ化、リサイクルなどを推進し、最小の資源で最大の社会的利益と企業利益を創出することが重要な課題になってきました。グローバル企業に対しては、今後大きな経済発展が予想される国や地域が、少ない環境負荷で経済発展を遂げられるよう、啓発や支援を行うことも求められています。一方で、森林保全や自然修復を行い、自然の再生能力の回復に努めることも重要です。



4 目指す姿は、環境負荷が自然の再生能力の範囲内に完全に抑えられている社会です。

かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐために、人間社会は、再び自然の中に戻り、環境負荷を完全に自然の回復力の範囲内に抑える必要があります。そのためには、温暖化防止・省資源・汚染予防の目標をもっと明確にしていくことも重要です。リコーグループは、持続可能な社会という長期的に目指す姿を実現するために、その通過点となる「2010年長期環境目標*」を設定します。私たちは、人類絶滅の危機を乗り越えるために、今までにない意識を持って、新しいチャレンジを始める必要があります。

* 13ページを参照。